



東京都港区芝愛宕町2の9
電話・東京434-7030
発行責任者
前川 功

日赤新労ニュース

- 綱 領**
- われわれは、社会正義に立脚した良識ある労働運動を通じて、われわれの権利を守り、生活の安定と向上をはかる。
 - われわれは、常に暴力と独裁を排し、自由にして明朗なる民主的労働組合としての健全なる発展を期する。
 - われわれは、赤十字の民主化と近代化を促進することによって、その人道的任務の達成に寄与する。

盛りあがる熱気の中 第2回 中央委員会 於・三重県二見浦真珠荘 八月二十九日・三十日

五月下旬の赤城山頂における中央委員会に次ぐ日赤新労の本年度第二回中央委員会は、三重県支部職員組合のお借折りによって、日赤新労支部の山崎中央委員が選ばれる。三重県二見浦、地方職員共済組合二見保養所、真珠荘を会場に、八月二十九日・三十日の二日わたって開催された。

日程は次のとおり。

- 一、開会のことば
- 二、資格審査と成立確認
- 三、議長を選出
- 四、書記の任命
- 五、執行委員長の挨拶
- 六、一般経過報告
- 七、審議
- 八、協議
- 九、閉会のことば

第一日

二十九日午後一時、日程のとおり、川出副委員長が起つて開会のことばを述べ、前川書記長から、中央委員十五名中十一名の出席による成立を確認した。

出席者は、執行委員長・川出副委員長、吉原執行委員長、川出副執行委員長、前川書記長、千種会計・久保田、増村、松下各執行委員。

○中央委員、佐藤克己(仙台日赤) 早川清也(前橋日赤)・横山幸夫(浜松日赤)・前田庚子(中央病院)・山田正(名日赤)・村岸義昭(名日赤)・服部昭一(名日赤)・山崎謙(奈良支部)・定久正夫(鳥取日赤)・山本肇(委員代理)・手塚(唐津日赤)・鶴田孝子(長崎原爆)など、以上構成の他に、前橋中央、名古屋第一、名古屋第二、山田、鳥取の各日赤単組から十余名の傍聴者があり、特に招待者として岡山日赤から二名の出席があった。

続く議長選出については、

執行部一任の発言多数によって、前川書記長から、従来からの慣習どおり、地元(第四ブロック)奈良支部の山崎中央委員が選ばれて議長に就き、就任の挨拶を述べた。

書記には、これもまた例によって、本部書記局長の夏井、田中の両名を任命。

次いで吉原氏が執行委員長長の挨拶に起ち、大要次のような決意のほどを披露した。

八月十二日、人事院は今年もまた国家公務員の七・九パーセントアップを勧告した。このことあるは、われわれの尻に予期したところであつて、諸物価増の当節、まことに無理からぬところである。

このような情勢のもとに持たれたこの中央委員会は、実に重大な意味を帯びておる。

われわれは、今度こそぞりざりな決議をもつてことに当らなければならないと思つておる。

財政がどうの医療費緊急是正がどうのというような生半かんない逃避戦術など、もはや通用しないところまで、われわれの生活は迫り詰まらされているのだ。

振り返つてみれば、六・七パーセントとか夏期手当とか、協約問題とか、引き続いた運動から来た情勢というか、疲弊というか、ささか退潮のきざしが見受けられないでもない。

しかし、われわれは、今回のベアをきつかけに、決然として起つべきときが来たことを銘記するべきである。

今回もまた公務員に先を越されて指をくわえているようでは、組織労働者として世間さまに対しては恥ずかしい限りである。

今度こそは!! 全組織をあげて掛け声だけでない公務員と同じ時率のベアを獲得するべき試験のときであること、肝に銘じて、各単組においても、強力果敢な運動を展開されたい。

また労働協約、組織の強化、その他重要な問題が審議される今回の会であるので、各委員の活発な発言を望む。

前川書記長の一般経過報告
五月十五日、十六日、群馬県赤城山大沼荘で第一回中央委員会開催。

五月二十二日、連絡第三号発送(中央委員会の決議による六・七パーセント実施不能施設長宛宣言文)。

五月二十五日、連絡第三号発送(回交委員招集)。

五月二十九日、連絡第三号発送(統一団交に指令第三号発送(統一団交について))。

五月二十九日、第一回団交交渉(夏期手当及び給与要綱運用について)。

五月三十日、連絡第五号発送(回交委員招集)。

五月三十日、連絡第五号発送(指令第四号発送(回交開催方について))。

六月五日、連絡第三号発送(臨時職員調査について)。

六月六日、給与専門会議(吉原増村氏出席)。

六月八日、新労ニュース第一九号発送。

六月十日、連絡第三号発送(給与手帳作成について)。

六月十二日、第五回労働協約小委員会(吉原、長田、前川、三木氏出席)。

六月十五日、連絡第五号発送(労働協約について)。

六月二十日、婦人部設置について初会合(前橋日赤佐藤、足利日赤沢口、浜松日赤坂田、名日赤渡辺の四氏と執行部より吉原、川出、前川の三氏出席)。

六月二十二日、連絡第三号発送(婦人部設置について)。

六月二十四日、鳥取日赤事務部長上京、吉原、前川両氏面接。

六月二十九日、組合規約加盟全単組宛発送。

六月三十日、鳥取日赤定久、山一、本年度ベアアップについて吉原執行委員長提案理由説明

七月一日、医療労組連絡会議出席(前川氏)。

七月十日、新労ニュース第二〇号発送。

七月十日、連絡第三号発送(会費納入方について)。

七月十五日、連絡第三号発送(新潟震災について)。

七月十五日、連絡第一号発送(夏期手当について)。

七月十六日、連絡第三号発送(婦人部招集)。

七月二十五日、婦人部第二回会合(佐藤、沢口、渡辺の三氏出席)。

七月二十七日、第六回労働協約小委員会(長田、前川、三木氏出席)。

七月三十日、益田日赤のスト権確立について照会。

七月三十一日、第三回執行委員会(回交結果について)。

八月十日、給与手帳を加盟全単組宛発送。

八月十五日、連絡第四号発送(新潟地震被災者救済金処理について)。

以上前回の中央委員会以後今回のまでの一般報告を終了、質問に入つた。

横山(浜松)夏期手当に関する回交は五月二十九日の一回だけであつたのか?

吉原・本社の言い分は、夏期手当については本社の権限はないから、単組で交渉すべきだ。としか権限がない、の一点張りであつた。

前川・賞与については各施設長に権限があるから、われわれは本社を通するものだから、われわれは要求に近いものを盛り返さなければならぬ。

久保田・本社はどのような通達を出すかについては、どうしても明示しない。われわれとしてはとにかく一律を多くするように繰り返し要求した。(回交の経緯についてくわしく説明)。

議長が発言で、オブザーバーとして出席の各氏の自己紹介があつて、審議事項に入った。

一、本年度ベアアップについて吉原執行委員長提案理由説明

議長・各ブロックからこの問題についての意見を聞いた上で対策を練ることとしたらどうであろうか。

山田(第三ブロック)国家公務員と同時同率の上にとつて加える。今度こそは国家公務員と同時同率をモットーとして強力に経営者にあたると。

山崎(第四ブロック)結論として団交と同時に同率。執行部と本社との交渉が決裂したら、全単組から本社に陳情して、それでもだめなら中労委に提訴する。というのではどうか。

早川・第一回中央委員会で決定した。要書書はどのくらい提出されたか?

吉原・八通ほどだ。決定したことを実行に移さないのはどういふわけか。中央委員の出ている単組で要書書を出さなかつた理由を要書書に記さすこと。

依藤・目下案をまとめたところある。早く出すつもりである。前田・いろいろな事情でまだ出していないが、出すことにしたい。

定久・すぐ出す。井手・出した。服部・オブザーバーとして出席の各位の発言を許したらどうか。山田・議決権はないが、発言だけは差支えないと思つた。(全員賛成)

鶴田・要書書などでは生ぬるいという単組の言い分だ。今度のベアはスト権確立までやる覚悟がなければならぬ。その上ではじめて中労委に提訴するべきである。

山田・最終的にはスト権の問題ともなるのだが、段階的に進めて行くべきであると思つた。

前川・回交を早く開くことにした権限があるから、われわれは具体的方法等について具体的に決めた。

吉原・ベア交渉では各単組でスト前と強いところまでやらなければならぬと思つた。しかし、どのような強力な方法を考へ出したとしても実行が伴わないのでは絵に描いた餅だ。要はくどういふ方法で実行である。

久保田・早急に単組交渉をして、その結果本部交渉をやる。さしあたり単組交渉をやることだ。村岸・単組交渉は絶対必要だ。ベアはやらねばならぬ、というところまで施設長の考えを追い込むことだ。

小崎(前執行委員長・山田日赤から出席)スト権まで持つて行くというなら臨時大会を招集した。早川・各単組で決定事項は必ず実行すること。臨時大会については賛成。

前田・ベアは医療費値上げがあればいい。山田・医療費正が安いとしても何んらかの財源を見つけてベアはやるべきだ。本部の団交の結果から判断して臨時大会はやるという意見である。

村岸・本社に対する示威の意味でも臨時大会はやるべきだ。

定久・本部団交を強力にやつてわれわれの声を反映させたい。臨時大会賛成。

鶴田・単組交渉、本部交渉を重ね、最悪の場合にはストでもやる覚悟だ。情勢によつて臨時大会は必要である。

井手・スト権は最悪の場合、臨時大会には賛成。

鶴田・新労はあくまで話し合いで行くのだという声がある。だが、これに対する本部の考えはどうか?

吉原・最悪の場合にはストもやる。労働組合であるというばおのずからおおりのことと思つた。

議長・書記長会議をやつたらどうか、という意見と臨時大会開催という二つがあるのだが、千種・会計として財政問題ということを考えて。書記長会議と臨時大会と二つともあつては財政的に苦しいのではないかと思つた。

久保田・早急に単組交渉をして、その結果本部交渉をやる。さしあたり単組交渉をやることだ。村岸・単組交渉は絶対必要だ。ベアはやらねばならぬ、というところまで施設長の考えを追い込むことだ。

小崎(前執行委員長・山田日赤から出席)スト権まで持つて行くというなら臨時大会を招集した。早川・各単組で決定事項は必ず実行すること。臨時大会については賛成。

前田・ベアは医療費値上げがあればいい。山田・医療費正が安いとしても何んらかの財源を見つけてベアはやるべきだ。本部の団交の結果から判断して臨時大会はやるという意見である。

村岸・本社に対する示威の意味でも臨時大会はやるべきだ。

定久・本部団交を強力にやつてわれわれの声を反映させたい。臨時大会賛成。

鶴田・単組交渉、本部交渉を重ね、最悪の場合にはストでもやる覚悟だ。情勢によつて臨時大会は必要である。

井手・スト権は最悪の場合、臨時大会には賛成。

鶴田・新労はあくまで話し合いで行くのだという声がある。だが、これに対する本部の考えはどうか?

吉原・最悪の場合にはストもやる。労働組合であるというばおのずからおおりのことと思つた。

議長・書記長会議をやつたらどうか、という意見と臨時大会開催という二つがあるのだが、千種・会計として財政問題ということを考えて。書記長会議と臨時大会と二つともあつては財政的に苦しいのではないかと思つた。



千種・会計として財政問題ということを考えて。書記長会議と臨時大会と二つともあつては財政的に苦しいのではないかと思つた。

